

市内小・中学校との つながり ～市立特別支援学校として～

具体的な取り組み

①学校訪問

各校1回目は5月～6月上旬。2回目以降は依頼を受けて、随時。

内容

1. 特別支援学級の授業見学
2. 特別支援教育コーディネーターとの話し合い
＊学校の特別支援教育の現状と課題
＊校内支援体制や関係機関との連携
＊特別支援教育コーディネーターの役割 など

②市内国・小・中・高特別支援教育コーディネーター部会

年4回

内容

＊研修 ＊情報交換 など

実践の成果と課題

成果

- 訪問をきっかけに、連絡や相談しやすい関係ができた。
- 専門家の指導につなげていくことができてきた。

課題

- △支援の多様性に対応できるよう、専門性の向上を図り経験を積んでいく必要がある。

実践の中で学んだこと

- ▶ 特別支援学校から情報を発信することの必要性。
- ▶ 教育・医療・福祉がつながりをもって支援することの大切さ。
- ▶ 国・小・中・高と支援を継続していくために、情報共有（支援ファイル）をしていくことの大切さ。

実践活動の今後について

- ▶ 国・学校訪問やコーディネーター部会、公開研修等の支援や情報発信をこれからも大切に行っていく。
- ▶ 支援部会で情報共有し、課題に取り組んでいく。

地域支援づくりへの提案

- ▶ 小学校・中学校の実情をよく知るエリアコーディネーターが中心となり課題や支援の在り方を焦点化し、研修等行っていく。
- ▶ 特別支援学校とエリアコーディネーターとの連絡、情報交換をコーディネーター部会等で行い、共通理解を図る。